



政統発 1018 第3号
平成30年10月18日

一般社団法人 日本腎臓学会 殿

厚生労働省政策統括官
(統計・情報政策、政策評価担当)
大西 康之



「日・WHO フォーラム (WHO-Japan Forum) 2018
～ICD-11・ICF 大活用時代の扉を開く～」
の後援について (依頼)

時下、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

厚生労働統計の推進につきましては、格別の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界保健機関 (WHO) は、本年6月に、国際疾病分類の第11回改訂版 (ICD-11) を公表しました。現行のICD-10への改訂 (1990年) 以来、約30年ぶりの改訂となります。

この公表を受け、加盟国は、分類の翻訳など自国での適用へ向けた準備を開始することが期待されており、2019年5月には世界保健総会へ提出される予定です。今後、我が国は適用に向けた検討を進めることとなります。

ICD-11の開発には多くの日本の医学の専門家・団体が関わり、日本病院会は、長年財政的支援等で貢献いただきました。また、特に内科分野の検討会議には、日本内科学会をはじめとして日本血液学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本消化器病学会、日本循環器学会、日本呼吸器学会、日本腎臓学会、日本リウマチ学会、日本小児科学会等が協力をいただきました。

今回公表された ICD-11 には、生活機能評価に関する補助セクションが新設され、これは、2001年5月にWHO総会で採択されたICF(国際生活機能分類)を基にしており、さらなる活用が期待されています。

こうした中、これまでの経緯をまとめ関係者への感謝を表すとともに、WHOの担当者に開発の意義や期待される目標、活用される事例等を講演していただき、未来像を共有することにより、国際統計分類の一層の活用を促進するため本フォーラムを開催いたします。

本フォーラム開催に併せて、昨年のICFシンポジウムに引き続き団体・一般参加者へもICFの活用状況を報告するポスターを公募し、会場で掲示発表することにより、ICFの普及啓発と利用者間の情報交換の場とする予定です。

つきましては、是非とも本フォーラム開催の趣旨に賛同いただき、ご後援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。